

牛久：学校周辺に見る自然

第1号

ひたち野うしく小学校

2010年4月24日発行

『中根小の自然』をご愛読下さった皆さま、初めて私のレポートをご覧になる皆さま、牛久市で理科支援員をしております宮内と申します。今年度は、中根小、ひたち野うしく小、牛久二小、牛久二中でお世話になっており、これら4校の校庭や学校周辺に見られる動植物の生活を中心に、各校での実験・観察等の補足や牛久自然観察の森、筑波実験植物園など近隣での観察のご報告もしたいと考えています。ただし、理科支援員と申しましても、理科全般にわたって深い知識をもち理解しているわけではございませんので、お読みになって疑問点等ございましたら、お知らせ下さるとありがたいです。どうぞ、よろしくお願いいたします。

<学校北～西、フェンス沿いの観察～その1. タンポポ>

今年度の第1号は、4/19(月)にひたち野うしく小の3年生と歩いた学校のフェンス沿いの観察から。校庭内はまだ雑草も少ししか生えていませんが、フェンスの外側では春の雑草がたくさん観察されました。そして、それらに集まるハチやハナアブ、ハエの仲間も。何組の時だったでしょう？いきなり目の前をキジが飛び去ったのにはびっくりしましたね。

セイヨウタンポポ(上)とカントウタンポポ(下)(キク科)



春の雑草は？と聞かれて、まず出てくるのがタンポポでしょうか。このタンポポに、古くから日本にある種と外国からやってきた種があることを知っている子どもたちもいましたね。その違いは？ そう、外国から来たセイヨウタンポポや、アカミタンポポでは花を包む一番外側の小さな葉？の集まり(総苞片といいます)がそり返っているのに対し、日本に古くからあるカントウタンポポではぴったりくっついていることでした。驚きなのは、セイヨウタンポポは花粉がつかなくても雌しべだけでタネを作れること。



さらに、タンポポの根元をかき分けてみると…

右の写真のように、たくさんの葉のわきに、それぞれ新しい花の赤ちゃんが用意されていることが分かりました。



そして、今回の観察では出てきませんでしたが、ときどき左の写真のような”



おばけタンポポ”に出くわすこともあります。

これは帯化(たいか)とか石化(せきか)とよばれる現象で、うちで借りている市民農園の空き地では、今年10株ほどの帯化タンポポがかたまっているのを見つけました。皆さんも、面白い生き物や現象を見かけたら教えてください。【理科支援員 宮内】